

21世紀における地域対応

『香川インテリジェントパーク』  
有効活用の提言

— 産業と文化の振興を目指して —

平成4年7月

社団法人 香川経済同友会

21世紀における地域対応

# 『香川インテリジェントパーク』 有効活用の提言

—産業と文化の振興を目指して—

## 目 次

〔はじめに〕 .....	2 頁
I. 香川県の現状 .....	3 頁
II. 香川インテリジェントパーク(KIP)の位置づけ ...	4 頁
III. 提 言 .....	5 頁
[1] 人・物・情報が交流し合い、絶えず新たな創造を生み 出す場とする	
[2] 将来を担う研究開発型中小企業の育成・支援	
[3] 優れた人材が喜んで集まり、その能力がフルに発揮 できる環境をつくる	
〔おわりに〕 .....	11頁

## 〔はじめに〕

香川県の経済社会は、高速交通網の整備に伴い、活性化の方向にあるが、全国と比べると、産業や文化の高度化はまだ十分ではなく、県民所得の水準は全国平均をやや下回っているなど、さらに一段の努力が求められているところである。

今後、四国内高速道路の整備が進むとともに、平成6年に関西国際空港が、平成10年頃には明石大橋や尾道～今治ルートが供用開始の予定であるが、これは県勢浮揚を図る大きなチャンスである。

この好機を前にして、今、高松市のほぼ中心にある広大な空港跡地に、技術・情報・文化の複合拠点となる「香川インテリジェントパーク」の建設が始まろうとしている。これは、「香川田園テクノポリス構想」の推進力となる頭脳拠点であるとともに、北の「港頭地区開発」と並んで、県都高松市の中核管理機能の向上に大きく寄与し、香川県の産業・社会・文化の向上に極めて重要な役割を果たすことが期待されている。

香川経済同友会は、このような観点から、「香川インテリジェントパーク」を如何に有効に活用すべきかについて検討を重ねてきたものであり、ここにその提言を行う。

平成4年7月

(社)香川経済同友会

代表幹事 多田野 康雄

代表幹事 丸 山 修

空港跡地  
特別委員長 近 藤 耕 三

## I. 香川県の現状

世界は今、高速交通・情報通信網の発達によって地球経済化が進み、国の垣根を越えて地方と地方が直接に交流し合う時代に入っている。また、技術の進歩は日進月歩の勢いであり、優れた技術と効率的なシステムを有する者が市場を制する激しい競争の時代である。しかし、一方では、働き過ぎへの反省から、心身をリフレッシュするリゾートライフや文化活動を希求する傾向も強まりつつある。

香川県は、昭和60年12月に香川田園テクノポリス開発計画の承認を受け、さらに平成4年5月には、同開発計画の変更計画の承認を受け、21世紀に向けて、環瀬戸内海の核となる活力と潤いに満ちた田園都市香川の形成に向けての取り組みを強めているところである。

この間、昭和63年4月に瀬戸大橋が開通、平成元年12月には高松空港が開港し、四国内を連絡する高速道路の建設も進みつつある。これに伴い、地域経済は活性化の方向にあるが、他方、地域間競争は激しくなっている。

香川県の現状を主な指標でみると、1人当りの県民所得は近年上昇傾向にあり、47都道府県中22位に位置しているが、全国平均値をやや下回っており（昭和63年度）、最近10年間（昭和55年～平成2年）の人口増加は、全国の5.6%増を下回る2.4%増と必ずしも満足しうるものではない。

また、産業構造をみると、全国に比べ第3次産業のウェイトがやや高く、第2次産業のウェイトがやや低い。なかでも、成長産業である加工組立型産業のウェイトがかなり低く、その強化・充実が今後の課題であるとともに、集積の大きい素材型産業や食料品産業は、これから、より付加価値の高い製品化やバイオテクノロジー分野に発展し、活路を開拓

していくことが求められている。

さらに、個別の企業についてみると、全国的に活躍している大企業や中堅企業は次第に増加はしているが、全体としては中小企業の数が圧倒的に多い。これらの中小企業は産業の基盤を支えている大きな力であり、その全体的なレベルアップと、これから香川の将来を担う中堅企業、大企業へと育てていくことが大切である。

一方、県内産業の活動や高度化を支援する試験研究機関は、国立2機関、県立10機関、財団法人等3機関、民間1機関の合計16機関があり、それぞれに特色を持った活動を行っている。また、高等専門学校は2校あり、大学・短大は11校あるが、理工系学部を有する大学は少なく、特に工学部を有しているのは1校のみである。

総体として、香川県の技術力、情報力、文化度は十分ではなく、産業も変革の兆しは見えるものの、旧態依然としたところが多い。このような状況を打破する起爆剤として「香川インテリジェントパーク」にかかる期待は大きい。

## II. 香川インテリジェントパーク(KIP)の位置づけ

香川県が、これまで田園テクノポリス構想を中心に進めてきた産業や文化の振興は、各所に散在する公的機関や民間企業がそれぞれ独自に実行する活動が中心であり、相互の連携や協力による相乗効果という点では、それほど大きな成果が上がっていなかったように思われる。

この点からみると、空港跡地の32haという広大な用地に建設される「香川インテリジェントパーク」は、「サイエンス・ソフトパーク」に公的機関である四国工業技術試験所、産業頭脳化センター(仮称)、産業交流センター(仮称)と民間の各種研究所やソフトウェア業が立地し、「カ

ルチャーパーク」には、図書館、文書館、美術館、博物館が立地して、先端的な科学と文化の一大集積が生まれる画期的な大事業である。まさに、田園テクノポリス構想を実現していく上で、極めて重要な役割を果たすことが可能な頭脳拠点であり、香川県民の期待はもとより、四国他3県の関心も高いものと考えられる。

また、既に述べたような香川県が抱える課題を解決していくためにも、K I Pが技術・情報・文化の拠点として果たすべき役割は重要であり、さらにこのパークの地理的位置および規模の大きさからみて、単に県内の企業や人々だけの利用にとどまることなく、四国、そして全国や海外にも広く開かれたパークとして活躍することが望ましい。

したがって、このインテリジェントパークの内容の充実を図り、これを有効かつ適切に活用して、地域振興の実を高めていくための方策および環境整備について、以下の提言を行う。

### III. 提 言

#### [1] 人・物・情報が交流し合い、絶えず新たな創造を生み出す場とする

インテリジェントパークには、いつも、多様な異質の才能を持った人々や、日本や世界の各地で作られた最新の技術や製品、歴史的あるいは文化的に価値の高い文物・資料、産業・社会・文化に関する有用な情報などが集まり、交流し、相互に刺激し合って、絶えず新たな発想や創造を生み出していく場となることが望まれる。このため、以下の諸方策を提案する。

##### ① 日本、世界にはばたく特色づくり

イ. パークの最高責任者や最高顧問として、全国的・世界的な著名

人を委嘱し、K I Pの名を高めるとともに、その指導を受けてレベルアップを図っていく。

また、基軸となる技術人を広く全国から募集し、登用することも望ましい。

ロ．香川ならではの何か特色ある分野（例えば、赤潮の研究や農水産業のバイオテクノロジーなど）について、日本一、世界一を目指す。

ハ．四国工業技術試験所については、中核施設として、一層強力な活躍ができるよう、長期的観点から人材と施設の強化・充実を進めていく。

なお、短期的な課題としては、四国内に不足しているエレクトロニクス関係技術についての支援の強化が望まれる。

## ② 多面的な交流の場づくり

イ．全国の代表的な頭脳拠点と提携関係を持ち、さらには海外の著名な頭脳拠点と姉妹縁組を結ぶことにより、情報交換や人の派遣など相互の交流を深めていく。

ロ．パークに入居する機関・企業が、それぞれの機密事項は守りながらも、フランクで有意義な交流・提携ができるような場や環境をつくる。

ハ．パークへの入居は、県内企業に限ることなく、広く優れた企業に門戸を開き、異質の才能のぶつかり合いが生み出す創造の成果を高めていく。

また、パークは、県外の人々や企業が気軽に利用でき、十分な満足が得られるような解放的な運営に努める。

ニ．産業頭脳化センターが中心となって、県内外を問わず、広く産学官の交流や異業種交流が進むような仕組みをつくる。

さらに将来、産学官が効率的に共同研究を行うことができる地域共同研究センター（文部省所管）の設置に向けて、県内の産学官が力を合わせ努力していくことが望まれる。

ホ．また産業頭脳化センターは、関係諸機関と協力して、全国的さらには国際的な会議の誘致・開催を積極的に推進・支援していく組織をつくり、諸会議開催の実現に向けての活動を展開する。

ヘ．産業交流センターは、新製品や新技術の展示会・商談会、研究発表会、各種シンポジウムなどを活発に開催し、人・モノ・情報の交流を図る。

ト．市民が憩うウォーターフロントであり、高度情報通信、コンベンション、観光・文化、交通の拠点である「港頭地区」と、技術創造、企業と人材の育成、文化活動の拠点である「K I P」が、それぞれの機能発揮に努めるとともに、両者の間を人々が行き交い、情報が流れ合うよう、アクセス手段を整備して、相互に利用度を高めていく。

### ③ 美・感・遊の場づくり

イ．パークに行けば、いつも何か役に立つことがある、あるいは面白い物や情報に出会えるよう、学術・研究だけでなく、芸術・文化や娯楽的なイベント等も積極的に開催する。

ロ．科学博物館では、ちびっ子が触って面白く遊べ、少年が未来技術に感動し、大人も新鮮な知識を学べるような、斬新でダイナミックな展示を提供し、とくに青少年の科学への志向を高めていく。



ハ．新しく建設される図書館と美術館は、サイエンス・ソフトパークとの関連も考慮して既に高松市にある施設とは、一味違う機能と特色あるものとし、利用者の期待に応えることが望まれる。

## [ 2 ] 将来を担う研究開発型中小企業の育成・支援

地場の中小企業は、地域産業の尖兵とも土台とも言える枢要な役割を果たしているが、これらの中から将来中堅企業、大企業に育っていくものが現れてくる。このような地場中小企業が活力に富んでいるかどうか、産業発展の鍵となるが、中小企業は、自社人材の育成・確保や事業拡大が思うにまかせない悩みを抱えているケースが少なくないと思われる。このため、産業頭脳化センターを中心として、以下の支援が必要と考える。

イ．産業頭脳化センターは、中小企業を支援する窓口として、常にそのニーズの把握に努め、一方問題解決のためのシーズや手段を探し出し、適当な企業や機関の紹介、情報の提供などに努力する。

ロ．研究開発室やインキュベータールームへの入居者は、県内企業だけに限定せず、公募制などにより真に創造的な企業の発掘に努めて、これを育成・支援し、産業の高度化につなげていく。

ハ．中小企業各層のニーズとレベルに適合する技術開発や人材育成の支援を適切に行う。

ベンチャー企業は、塾的な熱気のある雰囲気の中で群生し、成長していくと言われる。パーク内に入居する中小企業が、互いに学び合い、競い合って起業化に成功するよう、特に、その指導に当る人が情熱を持って取り組み、励ましや助言、問題点の整理などを適切に行っていくことが大切である。

また、研究機関等の作業現場を外部の人も見学できるシステムを

つくることによって、中小企業の研究開発活動への関心が高まり、ひいては技術支援につながることを期待される。

ニ．中小企業の個々の知名度の不足からくる販路拡大の難しさや人材採用の困難を打開するため、中小企業の総体的な業績、製品・技術情報などを積極的に紹介・PRし、新たな取引・提携先の獲得や優れた人材の確保に結びつけていくことが望まれる。

ホ．研究開発に必要な機器は十分に備え、それらが自由に、かつ容易に利用できるよう便宜を図る。

ヘ．とくに有望な技術シーズを有する中小企業については、その起業化を支援するための助成金あるいは低利資金貸与を行うことのできる制度を設け、公正に運用する。

### **[ 3 ] 優れた人材が喜んで集まり、その能力がフルに発揮できる環境をつくる**

研究開発心に富む、感性豊かな人材が集まり、意欲的に業務を遂行するためには、まず、優れた研究施設の整っていることが必要であるが、それだけでは十分でない。快適な生活環境、本音の話合いができる社交の場、心身をリフレッシュできる憩いと遊びの場などが備わっていることが必要である。

例えば、リサーチパーク発祥の地とも言えるアメリカのシリコンバレーでは、恵まれた自然環境の中に研究所群が整然と配置され、ゴルフ場をはじめとするスポーツ施設があり、何よりもあちこちに店を構えるバーや喫茶に多くの研究仲間が集まり、自由率直な情報交換や相互触発、新規事業創設の話合いなどの場になったという。

また、フランスのニース郊外にあるソフィア・アンティポリスは、リサーチとリゾートが一体となって整備されていることから、多くの世界

的企業が相次いで入居し、研究者も喜んで集まり、世界でも有数のリサーチパークになっている。

したがって、香川インテリジェントパークについても、以下のような環境整備を行うことが大切であると考える。

#### イ．パーク内および周辺に望まれる施設

パーク内外が緑に囲まれた快適な生活の場であり、パーク内には通勤者や外来客のための十分な駐車場、食事、喫茶等の施設、手軽にできるスポーツ施設が整っているほか、簡易な保健・医療施設、買物や宿泊の施設なども必要であろう。

現在、パーク周辺は、人家や人通りも少なく、生活の利便性に欠けるところがあるが、計画されている幹線道路等の建設やインテリジェントパークの整備が進むに伴って、いろいろと利便な施設が増えてくることも期待できよう。特に、パークから近い太田第2土地区画整理事業の推進、さらには、引き続き空港跡地周辺の地域についても土地区画整理事業を推進する等により、住宅・宅地や買物、飲食、スポーツ、レジャー、医療等の施設が秩序よく整備されていくことが望まれる。

#### ロ．高松市や香川県にさらに整備することが望ましい施設

高松市の中心部には、生活や遊びに必要な施設が十分とは言えないまでも揃っており、このパークと市中心部とを結ぶ足の便をよくすることが必要である。このため、公共交通網の整備と市内駐車場の一層の拡充が望まれる。そのほか、例えば、周辺の各病院との緊急医療体制を組んだり、各種スポーツ施設の利用権を取得するなど、極力既存の施設の有効利用を考えることにより、福利厚生の実現を図ることも必要である。

なお、県外からの優秀な人材をスカウトするため、K I P周辺における宅地の確保や住宅取得に関する優遇措置を設けることも検討を要する課題と考える。

また、

- 香川県には少ない工科系大学や全国的な試験研究機関の誘致
- 国際的な会議を円滑に開催できる施設の一層の整備および運営力の強化
- 瀬戸内海に面した大自然の中で、各種のスポーツや芸術・文化、山海の珍味などを楽しみながら、研修・会議のできる滞在型の大型研修センター

なども望まれるところである。

このような施設が整備された場合には、K I Pに存在する研究機関や文化施設とネットワーク化することにより、総合的な機能が一段と高まることが期待できる。

## 〔おわりに〕

香川インテリジェントパークは、平成7年末に概成される見込みであるが、このパークの整備は、それで終わるものではない。例えば、アメリカの代表的なリサーチパークの一つ、ノースカロライナ州にある「リサーチ・トライアングル・パーク」は、現在の姿になるのに30年を要したと言われる。

香川インテリジェントパークも、30年あるいは50年の計に立ち、着実な努力を積み重ねて内容の強化・充実を図り、本四3橋や高速道路、高松空港や関西国際空港などの高速交通網を活用して、全国・世界との交流を深めつつ、日本を代表するような科学・文化の総合的な拠点となるよう、育て上げていくことを希望したい。

## 検討の経過

- 平成2年3月29日：第1回空港跡地特別委員会・情報化委員会を開催し、香川大学川本教授から地域開発と情報化戦略についての講演をうかがうとともに、委員会の活動方針について討議した。
- 平成2年6月13日：第2回空港跡地特別委員会を開催し、香川県企画部地域整備課野田氏から、空港跡地利用計画の現状についての説明を受け、意見交換を行った。
- 平成3年8月6日：ワーキンググループとしての小委員会（4名）を作り、その第1回会合を開催。香川インテリジェントパーク計画の進捗状況、先進地リサーチパーク事例などについて討議した。
- 平成3年9月19日：第2回小委員会を開催し、四国工業技術試験所の活動状況およびリサーチパークに造詣の深い産業立地研究所社長真野博司氏の著作をもとに、KIPのあり方について討議した。
- 平成3年12月13日：第3回小委員会を開催し、アンケート調査の実施および提言のポイントについて討議した。
- 平成3年12月20日：当特別委員会メンバーを対象にアンケート調査  
～4年1月17日 を実施した。
- 平成4年2月20日：第4回小委員会を開催し、アンケート調査の結果報告および提言骨子について討議した。
- 平成4年3月10日：第5回小委員会を開催し、提言素案について討議した。
- 平成4年4月7日：第3回空港跡地特別委員会を開催し、提言素案をまとめた。

社団法人香川経済同友会「空港跡地特別委員会」委員名簿

(○印は小委員会委員)

- [代表幹事] 多田野康雄 (株)タダノ 代表取締役会長  
丸山 修 南海プライウッド(株) 代表取締役社長
- [委員長] ○近藤耕三 四国電力(株) 取締役副社長  
清水和夫 (株)きんでん四国支社 常勤顧問  
○平田喜一郎 (株)ヒューテック 代表取締役社長
- [幹事] ○池浦孝雄 三井信託銀行(株)高松支店 支店長  
二ノ宮博之 アイニチ(株) 代表取締役社長  
東川 昇 西松建設(株)四国支店 支店長  
松井義明 (株)タカラヤ家具 代表取締役社長  
三村俊博 三村鉄工(株) 代表取締役  
山地真人 三和電業(株) 代表取締役社長  
吉田二郎 (株)公益社 代表取締役
- [委員] 岩原利昌 (株)銭高組四国支店 支店長  
太巻富太 (株)ウズマキ 代表取締役社長  
海野邦康 日産建設(株)四国支店 支店長  
桑嶋紀二 (株)中央 代表取締役  
坂本龍夫 坂本石油(株) 代表取締役  
高木新一 (株)フジタ四国支店 総務部長  
多積 徹 西日本放送サービス(株) 常務取締役  
○名瀬正道 飛島建設(株)四国支店 支店長  
別枝 繁 (株)別枝組 常務取締役  
簸内和雄 (株)簸内建設(株) 代表取締役
- [事務局] 石丸尚志 (社)香川経済同友会 専務常任幹事・事務局長  
角田元生 (社)香川経済同友会 調査部長

21世紀における地域対応  
『香川インテリジェントパーク』  
有効活用の提言  
—産業と文化の振興を目指して—

---

平成 4 年 7 月 27 日発行

発 行 (社)香川経済同友会

専務常任幹事 石丸 尚志  
事務局長

〒760 高松市紺屋町1-3  
紺屋町清水ビル6階  
TEL 0878-21-8754  
FAX 0878-23-1160

---

(社)香川経済同友会提言 No.9